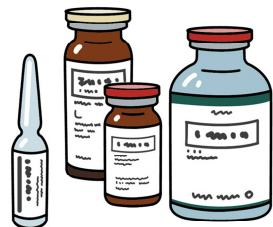


薬剤部

独立行政法人 国立病院機構
神戸医療センター
National Hospital Organization Kobe Medical Center

薬剤部では、患者さまに安全かつ適正にがん化学療法を受けていただけるよう、がん化学療法に用いるくすりの調製と管理を行っています。



ひとりひとりに適正な量の
薬剤を調製しています。



がん化学療法を受けられる入院患者さんや外来患者さんに、治療で使用しているくすりに関する、薬効、副作用、注意事項等を説明しています。

化学療法を受けられる患者様へ

国立病院機構 神戸医療センター がん化学療法委員会

A. 薬について

がん細胞には正常細胞を無視してどんどん勝手に増え続ける「不受制御」があります。このように腫瘍手に増殖続けるがん細胞を殺害したり、増殖を抑える作用を持つ薬を能動的で投がん細胞あるいは(抗がん)化学療法薬といいます。

化学療法で使われるお薬には、大きく述べて細胞障害性薬剤と分子標的薬の二種類があります。どちらもがん細胞を直接攻撃する薬です。分子標的薬は正常細胞より選択性が高く、がん細胞によく取り込まれ、ダメージを与えます。分子標的薬は、がん細胞増殖に深く関わる細胞内的人ばくに作用します。

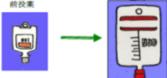
B. 治療スケジュール

治療により、お薬により投与スケジュールが異なります。医師、薬剤師、看護師に治療内容を、投与量とともに体調面に基づき決められ、患者さんと日々の状態、体重、各臓器機能にあわせて調整されます。

C. 前投薬について

一般的に吐き気やアレルギーなどを防止する薬が投与されかねない抗がん性を示す薬が投与されます。分子標的薬やその他の、前投薬が必要でないものもあります。

D. 点滴前・点滴中のお願い

一つの袋で2回、3回点滴する場合もあります。
→

点滴中は静かにトイレに行くことができますが、あらかじめ事前にトイレをお済ませ下さい。薬液が漏れないように、腕を曲げたり、腕にくっ貼したりしないようにしましょう。



薬の専門家として、安全かつ適正な治療を提供しています。